



日韓共通戦略目標を構想する

—地域研究部北東アジア研究室主任研究官 阿久津 博康

NIDSコメンタリー

第25号 2012年10月1日

もう共通戦略ビジョンは見えている

1990年代以降、日韓安全保障協力(以下、日韓安保協力)は北朝鮮への対応をめくり大幅に進展してきた。これは一般の感覚に反するかもしれないが、過去約20年の日韓安保協力の軌跡を振り返れば、多くの専門家が同意することであろう。現在停滞しているものの、軍事情報包括保護協定(GSOMIA)や物品役務相互提供協定(ACSA)の締結など、20年前は一部の専門家を除き誰も想像しなかったことである。

また、これまで日韓の研究者の間で冷戦後の朝鮮半島や北東アジア地域の安全保障環境の変化の方向性やシナリオについて議論が行われてきた。そうした議論で示されてきた主な共通認識には、中国の経済及び軍事面での台頭とそれに伴う中国の影響力の増大、ロシアの将来の不透明性、米国の国力の変化、米中関係の動向が日韓に与える影響の変化、韓米同盟と日米同盟のそれぞれの管理・維持への新たな課題の浮上等が含まれる。特に、こうした議論を通じて、北東アジアの将来の地政学的風景(ランドスケープ)に関する専門家の見解が、1)米国優勢の秩序、2)米中拮抗の秩序、そして3)中国優勢の秩序、の3つに集約されつつあるように思われる。

果たして、こうした将来の北東アジアの地政学的可能性に対して、日韓はいかにして相互の国益を擁護・増進し、共存していくべきであろうか。勿論、日韓の間には多くの差異が存在するが、両国がともに米国の同盟国であり、多くの基本的価値や利益を共有することに鑑みれば、両国が指向すべき戦略ビジョンは、自ずと見えてくるはずである。そうしたビジョンに基づき、両国はいかなる共通戦略目標を打ち立て、その実現に向けてどのように行動すべきか。今やこの点について真剣に考えるべき時が来ているのではなかろうか。

共通戦略目標を構想する

1998年に日韓共同宣言「21世紀に向けた新たなパ

ートナーシップ」が発出されてから14年が経つ。日米同盟さえ、冷戦終結から約15年を経て初めて共通戦略目標が公言された。それゆえ、日韓が共通戦略目標を含む安全保障協力を共同で宣言しても、それは不自然なことではないかもしれない。否、むしろ、北東アジア及びより広汎なアジア太平洋地域が地政学的変動期にあるからこそ、日韓は共通戦略目標を示し、両国の安全保障協力の深化・拡大の方向を示すべきであろう。以下はこうした共通戦略目標の私案である。

共通戦略目標

日本及び大韓民国(以下、韓国)は、国際社会において基本的人権、民主主義、法の支配といった基本的価値を促進することを確約する。1998年の日韓共同宣言「21世紀に向けた新たなパートナーシップ」には、両国がこうした価値を共有することが既に示されている。

また、日韓はともに米国のアジア地域における枢要な同盟国である。両国には直接的な同盟関係は存在しないが、これまでの安全保障協力の経験と蓄積、そして昨今の北東アジアの安全保障環境の変化に鑑み、両国の間により有効な安全保障協力関係が必要である。日韓の安全保障協力のさらなる強化は、既存の日米韓安全保障協力の強化にも資することが期待できる。

さらに、激動する北東アジアの安全保障環境に鑑み、基本的価値と利益を共有する日韓が、将来に向けて同地域の秩序構築に協力することを確約する。

以上に基づき、日韓両国は次の通り共通戦略目標を掲げる。

- 共通の同盟国である米国のアジア太平洋地域での役割の重要性に鑑み、同国の安定的な関与と拡大抑止の強化・維持に資するべく努力する。
- 六者会合を通じて朝鮮半島の非核化を達成し、また、

その他の分野での進展を展望した 2005 年 9 月 19 日の共同声明の完全な実施に向けて努力する。

- すべての国連加盟国が国連憲章第 7 章下の決議である国連安保理決議第 1718 号及び 1874 号の規定を遵守する義務を引き続き有していることに留意しつつ、同決議の迅速かつ完全な実施に向けて努力する。
- 将来の朝鮮半島の統一を見据え、民主主義と市場経済が主導する平和的な朝鮮半島の統一に向けて協力する。
- 地域及び世界の安全保障に対する中国の貢献の重要性を認識しつつ、中国に対して、責任ある国際社会の一員として行動すること、軍事分野における透明性を高めること、及び表明した政策と行動との間の一貫性を維持することを更に促す。
- 東南アジア諸国連合 (ASEAN) 拡大国防相会議 (ADMMプラス) や東アジア首脳会議 (EAS) 等での取り組みを積極的に支援し、ASEAN との安全保障協力の強化に向けて努力する。
- 豪州との安全保障協力の強化に向けて引き続き努力するとともに、双方は日米豪安全保障協力の強化、及び韓米豪安全保障協力の構築に向けて努力し、支援する。

- インドの継続的な成長が地域の繁栄、自由及び安全に密接に繋がっていることを認識しつつ、共通の利益の分野を進展させ協力を強化するため、インドとの協力を引き続き強化する。

なお、こうした共通戦略目標は安定的でなければならないが、同時に硬直的であってはならない。こうした目標とそれに関連する双方の役割や能力を刻々と変化する情勢に合わせて再検討すべきである。日米同盟の共通戦略目標の場合、既に2回確認と更新が行われている。日韓の間でも、常日頃からこの地域の安全保障情勢や戦略的評価について意見交換する必要がある。その際、中国の軍事的台頭を中心とした北東アジアの地政学的風景の変化と帰結に関するシナリオ、北朝鮮の新体制の方向と帰結に関するシナリオ、中国、ロシア、北朝鮮を含む(六者会合とは別の)協力の可能性、日中韓安全保障協力・日米韓中安全保障協力の可能性等、議論すべきことは多々あると思われる。

具体的行動計画に向けて

日韓の間で共通戦略目標が合意されれば、次は具体的行動計画の策定が課題となる。勿論、日韓はこれまでに多くの具体的協力を蓄積してきた。今後は戦略目標と具体的協力を論理的に連関させればよいであろう。また、戦略目標の更新に伴い、具体的行動計画も更新されるべきである。まずは日韓のトラック 1.5~2 の専門家が積極的に議論を開始し、草案の策定を目指すことを期待する。(2012年9月18日脱稿)。

プロフィール

profile

地域研究部北東アジア研究室

主任研究官 **阿久津 博康**

専門分野：

朝鮮半島の政治・軍事、北東アジアの安全保障、日米韓安全保障協力、日豪安全保障協力、日米同盟、情報分析論

本欄における見解は防衛研究所を代表するものではありません。

NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断引用はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3713-5912

代 表：03-5721-7005 (内線 6258)

FAX：03-3713-6149

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>